

平成二十七年医学研究助成金・外国人留学生奨学金の授与式を開催



平成二十七年医学研究助成金及び肥後医育振興会外国人留学生奨学金の合同授与式が、平成二十七年十一月十七日に医学教育図書棟四階ゼミ室において行われ、西理事長から医学研究助成金五名、外国人留学生奨学金三名に対して、各十五万円が受賞者ひとり一人に手渡されました。また、それぞれの受賞者の代表者から謝辞及び今後の決意が述べられました。

第五十一回日本肝臓学会総会を終えて

熊本大学大学院生命科学研究部消化器内科学分野教授 佐々木 裕

平成二十七年五月二十一日、二十二日の二日間、ホテル日航熊本、熊本ホテルキャッスルと近接する二会場の計四会場で、第五十一回日本肝臓学会総会を開催した。熊本での日本肝臓学会総会の開催は、今回が初めてである。

メインテーマを「肝臓学の evolution」より広く、より深く」とし、今後の肝臓領域の疾病構造の変化も念頭に、肝臓学における次なる研究対象、診療対象をどのように設定しアプローチするかを、他領域の最新の知見も学びつつ考えるという趣旨で、プログラムを構成した。

三つのシンポジウムでは「肝発癌研究と臨床への展開」、「B型肝炎に対する治療戦略と今後の展開」、「C型肝炎の最新治療と今後の展開」をテーマとし、六つのパネルディスカッションや十一のワークショップでは、臨床と基礎の両面から肝臓学の現状を理解し今後の展望を考えるために、ウイルス性肝炎、生活習慣と肝疾患、肝硬変、肝癌、肝画像診断、肝免疫、肝再生、肝線維化、バイオマーカー、肝内胆管癌、肝移植、嚢胞性肝疾患と肝疾患全般にわたる多面的なテーマを設定した。

四つの特別講演を企画し、国立がん研究センター研究所の牛島俊和先生には炎

症に基づく発癌過程をエビジェネティクスの観点から、理化学研究所の大野博司先生には身体の恒常性維持に重要な腸内細菌叢と免疫の関連を、マサチューセッツ大学の Gyongyi Szabo 先生にはアルコールにより肝細胞から遊出する代謝産物と肝内の免疫担当細胞のクロストークと肝障害発症関連を、ブラウン大学の Jack R. Wands 先生にはアルコール性肝障害の病態発生におけるインスリン抵抗性の関与について、ご講演頂いた。

さらに特別企画として、医学情報学、統計学に関する教養講座、B型・C型肝炎診療ガイドライン公聴会、超音波ハンズオンセミナーを開催した。ハンズオンセミナーは日本肝臓学会総会として初めての取り組みであった。また、男女共同参画委員会特別企画では、熊本城が一望できるホテルの最上階でランチをとりながらディスカッションするという新たなスタイルを取り入れた。さらに二十二日の本会終了後には、若手医師に肝臓研究の面白みや充実感を伝えるためにサテライトセミナーも開催した。

今回は学会の規模から複数の会場に分かれたために、インターネット上で各会場の主要なプログラムをライブやオンデマンドで視聴できる「e学会」を取り入れ、その利便性は参加者には大変好評であった。e学会は今後の学術集会の運営に一つの方向性を示したと考えている。

会期中は幸い天気にも恵まれ三〇〇〇名を超す先生方にご参加いただき、約一

〇〇〇題の演題の発表と活発な討論を通して、多くのメッセージを発信することができた。第五十一回日本肝臓学会総会が、これからの肝臓学、さらに日本肝臓学会の発展に少しでも貢献できておれば、会長としては望外の喜びである。

第七十九回日本循環器学会学術集会記念シンポジウム・市民公開講座 熊本への報告

第七十九回日本循環器学会学術集会事務局長

熊本大学大学院生命科学研究部循環器内科学分野准教授 掃本 誠治

二〇一五年四月二十四日(金)〜二十六日(日)の三日間、小川久雄会長(当時・熊本大学大学院循環器内科学教授・国立循環器病研究センター副院長)の下、第七十九回日本循環器学会学術集会を大阪市の中之島会場(大阪国際会議場、リーガロイヤルホテル大阪等)とグランフロント大阪会場(梅田会場・ナレッジキャピタル コングレコベンションセンター等)の二つの会場をシャトルバスでつなぎ開催致しました。両会場あわせて、二五の講演会場、二つの共催セミナー特設会場、六つのポスター会場にて総講演セッション四三〇、ポスター発表三〇五セッションが行われました。最終的に、一般演題二二二八演題、特別プログラム一二〇二演題、合計三三三〇演題の研究報告が報告されました。三日間の